

# ちよつといし話

## ～ ぶみ 文 ～

『我、今娑婆の縁つき、無為の都におもむき候。御身よき出家と成り、玉（給）い佛性けんの見をみがき、そのまことより我々地獄に落つるか、落ちざるか不断添うか、そわざるかを見給うべし。釈迦、達磨だるまをも奴となし給う程の人に成り給い候わば、俗にても苦しからず候。佛四十余年説法し給い、ついに一字不説とのたまひし上は我と見、我と悟るが肝要に候。何事も莫妄想ぼく、あなかしこ。不生不死身 かえすがえすも方便の説のみを守る人は、くそ虫と同じ事に候。八万の諸経をそらによみても佛性けんの見をみがかずんば、此の文ほどの事も解しがたるべし。』

この文は、一休禅師の母が一休に送った手紙です。文章だけを見ると、非常に偏った思想のように思いますが、分かりやすく良忠上人がお書きになってみえます。上人曰く、「そもそも、世人を見るに各々偏見に墮して佛意かなに協かない難し。悲しいかな、因果を信ずる者は、他力の信弱く、本願を信ずる者は、因果の理ことわりゆる 緩し。こいねがわくは専ら本願を信じ、兼ねて因果を信ずべし。即ち佛意協かない、往生を遂ぐべきなり。」と訓示されました。要するに、お念仏をする人は全てお救い下さると言う阿弥陀様の本願を信じ、尚、その上に因果の道理を信じて御佛の心に添い、佛性を開き、美しき往生の素懐を果たすべきなのである。

我今見聞得受持 願解如来真实義

一字不説…禅宗で珍重された言葉で、真の实在は説こうとしても説き得ないことを表現するものである。

莫妄想…暴走すること無かれ。

素懐…深く願うこと。

善入院油掛地藏尊